

後期臨床研修プログラム（呼吸器外科）

1) プログラムの目的と特徴

- ・呼吸器外科疾患に関する幅広い知識と呼吸器外科の基礎的スキルを習得する。
- ・日常遭遇することの多い自然気胸，肺癌，縦隔腫瘍などに対する外科治療の適応判断ができるようになることを目標とする。
- ・呼吸器内科・内科専門医を志望する研修医では，呼吸器疾患に対する外科的知識と技能の習得を目指す。
- ・呼吸器外科・外科専門医を志望する研修医では，外科専門医（呼吸器外科専門医）取得のための修練の一部として，呼吸器外科の知識と技能を習得する。

2) 取得できる専門医

外科専門医（卒後6年目以降），呼吸器外科専門医（卒後8年目以降）
気管支鏡専門医（卒後9年目以降）今後，呼吸器専門医も取得可能

3) 専門医取得の要件

外科専門医：手術経験数350例以上，業績単位20単位以上

呼吸器外科専門医：術者50例以上，助手100例以上，業績※

※：論文3編，学会発表5回，学会参加5回，セミナー受講2回，

呼吸器外科胸腔鏡教育セミナー受講1回，医療安全講習2回以上

気管支鏡専門医：経験100例以上，術者20例以上，業績単位50単位以上

4) プログラムの研修内容

研修1年目（卒後3年）

外科基本手技の習得，呼吸器外科研修と外科系各科ローテーション
学会発表

研修2年目（卒後4年）

呼吸器外科研修と外科系各科ローテーション
学会発表，論文執筆

研修3年目（卒後5年）：外科専門医予備試験受験資格

呼吸器外科研修（大学院進学）

研修4年目（卒後6年）：外科専門医試験受験資格

外科専門医取得，呼吸器外科研修（臨床系基礎研究）

研修5年目（卒後7年）：

呼吸器外科研修（臨床系基礎研究，学位論文作成・投稿）

研修6年目（卒後8年）：呼吸器外科・気管支鏡専門医試験受験資格

呼吸器外科専門医取得，気管支鏡専門医取得（大学院博士課程修了）

5) 指導医・専門医・認定医取得医師名

箕輪 宗生（日本外科専門医，呼吸器外科専門医，気管支鏡専門医）

6) メッセージ

呼吸器外科手術件数は年間140-150例，肺癌手術50-60例，自然気胸40例と東北有数の症例数を有する中核施設です。内視鏡手術から気管支形成，血管形成などの拡大手術まで幅広い経験を積むことができます。呼吸器内科と同じ病棟（呼吸器センター）で診療を行っており，治療ニーズに応じた患者紹介がスムーズです。東北大学及び獨協医科大学からスタッフ及び派遣医が来ています。学会地方会の主幹などでもしており学会活動も積極的に行なっています。

日本の専門医制度は、現在、学会から離れた第三者機関により基幹19診療科に基づいて再編が進められていますので、当科の研修プログラムについても必要に応じて、対応して参ります。